

令和4年度 学校評価表

学校教育目標	学校教育目標 「自ら学び、考え、自立した行動ができる「きさ」の子どもの育成」
--------	--

重点目標	真剣(主体的な学び・深い学び)に学び、人を大切にする児童の育成
------	---------------------------------

評価計画				
経営目標		評価指標	具体的な取組・方策	
中期	短期			
生きる力の育成	確かな学力を育成する	学習規律を定着させる。 主体的・深い学びの充実を図る。	・学習規律が身に付いた児童を90%以上にする。 ・自分の考えを伝え合い、考えを広げたり深めたりしているという児童の割合を60%以上にする。	・「ベル着」「次の学習準備をする」「号令前後の静止」の徹底を図る。(強化週間を設け、児童会とも連携しながら意識付ける。) ・学習を通じた学びの深まり(初めの考えと学習後の考えの変化・友達のを聞いて広がったり深まったりした考えなど)を振り返る取り組みを進める。
		学力を確実に定着させる。	①国語科・算数科の単元テストで、80点以上の児童の割合を各学年85%以上にする。 ②三次市学力到達度検査(基礎・活用)で、全国平均を上回った教科数の割合を80%以上にする。	・各教科の特性を生かした指導を工夫改善し、児童の「わかる・できる」を保障する。 ・ドリルタイムを機能的に活用し、基礎的な技能の習得や復習を図る。 ・自主学習ノートで予習、復習に取り組み、基礎学力の定着を図る。
		表現力を育成する。 (小中一貫教育)	・自分の考えを持ち、それを伝えている児童の割合を80%にする。	・児童が考えたいと思う授業づくり(めあて、発問の工夫)を行う。 ・ペア、グループ、一斉学習とさまざまな形態で考えを伝える場を設定する。 ・考えを書く時間、学習の振り返りをする時間を確保する。
	豊かで健やかな心身を育成する	自己有用感の向上と礼節と規範意識の定着(小中一貫教育)	・自己有用感を持つ児童を80%以上にする。 ・規範意識をもつ児童を85%以上にする。	・自分の良さに気付き、伸ばしたい意欲や友達の良さを認められる児童を育てると共に、認め合い、つながりを深める集団づくりに努める。 ・道徳学習プログラム「吉(よ)き舎(やど)りプログラム」を計画実施し、自分との関わりで考えさせる。 ・あいさつ、はきものそろえ、返事ができる児童を育成する。あいさつの仕方を具体化したものを提示し、委員会活動などで児童が主体的に取り組ませる。 ・アンケートやi-checkを分析し、PDCAサイクルで取り組む。
		体力を向上させる	・新体力テストで、50%以上(昨年度32%)の項目が県平均または全国平均を超えるようにする。 ・食に関心を持ち、食べ物を好き嫌いせず、食べようとする児童を75%以上にする。	・新体力テストの県平均等や昨年度の自己記録をもとに、自己目標を設定させる。 ・体育科を中心に体づくり運動に取り組む。 ・給食時間や各教科等の時間を活用して、食に関する指導を行うとともに、掲示やたより等を活用して、食に関する興味・関心を高める。
	く信り頼をされる学校づくり	地域に信頼され、開かれた学校づくりを推進する。	・小中連携の充実を図り、月に1回以上、学校だよりやホームページ等で保護者や地域に情報提供を行う。保護者アンケートで肯定的な回答の割合を90%以上(昨年度92%)にする。	・「きさ」小中一貫教育推進協議会の計画のもとに、小中9か年を見通しためざす子ども像に向け、連携教育の実施、充実を図る。 ・学校だより、ホームページで小中連携教育の取組を具体的に分かりやすい内容で保護者、地域に情報提供を行う。保護者アンケートを実施し、小中連携教育に関わる保護者等の理解を把握し、取組に生かす。
働き方改革	教職員の児童に向き合う時間の割合を増やす。	・働き方改革により、児童に向き合う時間の割合が増えた実感を感じる教職員の割合を80%以上(昨年度79%)にする。	・学期ごとのアンケート、メンタルヘルスチェックにより実態を把握し、学校衛生委員会、企画委員会の取組を行う。	

(評価) A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (<できていない)<60